

小学校第5学年 社会科学学習指導案

日時 平成16年6月11日(金)5校時
児童 北上市立飯豊小学校 5年1組
男子17名 女子20名 計37名
指導者 教諭 三好 定巳

1 単元名 水産業のさかんな地域をたずねて

2 単元について

(1) 教材観

日本は周囲を海に囲まれた島国であり、水産業は国民の食生活と密接なかわりをもつ重要な産業である。しかし、食料資源の確保や、自然環境とのかわりの観点から見ると様々な問題点を抱えている。

例えば、200海里規制により遠洋漁業は落ち込み、いわしの不漁により沖合漁業は急減してきている。また、労働条件や労働環境の厳しさ、危険性、将来性や雇用の不安などの理由から、漁業で働く人は減少してきている。さらに、日本の水産物の消費量・輸入量はともに世界一となっており、その動向が世界に大きな影響を与えている。

そのような中で、環境や資源の保護を考えた漁業が行われるようになってきていること、人々が食料を安心して食べられるよう、いろいろな取組みが行われていることなどを学習させていきたい。

(2) 児童観

岩手県の内陸北上市に住む子供たちにとって、水産業は身近なものではなく、実際に働いている場面を見たことがある児童は少ない。海は、休日に出かけて行って釣りをしたり海水浴をしたりして楽しむ場なのである。また、鮭が好きな子が多いが、給食に出る焼き魚などは、食べ残してしまう子もいる。さらに、海でとれた魚が、スーパーや魚屋の店先に並ぶまでにどう流通してきているのかは考えが及んでいない子もいる。

(3) 指導観

子供たちの食生活に目を向けさせ、身近にある水産物を追究の窓口として学習を進めながら、写真やグラフなどの資料の読み取り、問題を追求し解決していくことが学習の中心となる。そのような学習を進めながら、日本人の食生活のあり方にも目を向けさせていきたい。

3 単元の目標

わが国の水産業の様子に関心を持ち、それを意欲的に調べることを通して水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもっていることを理解できるようにする。

【関心・意欲・態度】

わが国の水産業の様子に関心を持ち、それを意欲的に調べ、考えながら追究しようとする。

国民生活を支えているわが国の食料生産について関心を深め、その発展を願う。

【思考・判断】

水産業の様子から問題意識を持ち、学習の見通しをもって追究・解決をする。

国民の食料を確保するわが国の水産業の意味や自然環境との関連について考えることができる。

【技能・表現】

水産業の様子やかかえる問題を、写真、地図、グラフなどを活用して具体的に調べる。

水産業に従事している人々の工夫や努力を資料を活用して具体的に調べる。

調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現する。

【知識・理解】

さまざまな食料生産が国民の生活を支えていることがわかる。

食料の中には外国から輸入しているものがあることがわかる。

水産業に従事している人々の工夫や努力がわかる。

漁港と消費地を結ぶ運輸の働きがわかる。

4 単元の指導計画と評価規準

時	指導目標	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	給食の献立表から水産物が使われているもの探し、消費量が多いことに気づき、学習課題を設定し、学習計画を立てる。	水産業について興味・関心をもち、水産業で働く人々の工夫や努力について調べる意欲をもつ。			
2	さんまをとる本島さんの漁の様子について話し合い、海で働く人たちの努力や悩みに気づくことができる。				国民の食料を生産する漁師の苦労や思いがわかる。
3 (本時)	遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業の漁業別生産量の変化のグラフを見ながら、変化の理由を考察することができる。		日本の水産業は漁場の制限や水産資源の減少などの問題を抱えていることがわかる。	生産量の移り変わりを、漁業別に読み取ることができる。	
4	さんまがわたしたちのもとへ届けられるまでの様子を調べ、食料生産を支える運輸のはたらきについてとらえることができるようにする。				新鮮な魚を遠くの消費地に届けるために、運送にかかわる人がどのように工夫しているかわかる。
5	かきを育てる畠山さんの仕事の様子について調べ、養殖漁業が自然環境と深くかかわりながら行われていることに気づくことができる。			写真や地図から、かきを養殖する仕事と自然環境、自分たちのくらしとのかかわりを読み取る。	
6	畠山さんが行っている植林活動について調べ、海の資源を育てるために、森や川の自然を守ろうとする努力や願いについてとらえることができるようにする。		海で働く畠山さんが、山に木を植えるわけを考え、畠山さんの願いに気づく。		

5 本時の指導

(1) 目標

遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業の漁業別生産量の変化のグラフを見ながら、変化の理由を考察することができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手だて
思考・判断	・様々な資料をもとに、日本の水産業は、漁場の制限や水産資源の減少などの問題を抱えていることがわかる。	・日本の水産業は、漁場の制限や水産資源の減少などの問題を抱えていることがわかる。	・一つ一つ資料のもつ意味を考えさせるようにする。
技能・表現	・生産量の移り変わりを漁業別に読み取ることができる。	・遠洋漁業、沖合漁業は減少してきていることを読み取ることができる。	・グラフの傾きをとらえて読み取らせるようにする。

(3) 展開

段階	学習活動及び内容、予想される子供の反応	支援、評価、留意事項、資料
導入 10分	<p>遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業の漁業別生産量の変化のグラフを見る。</p> <p>遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業、養殖漁業、栽培漁業について知る。</p> <p>気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠洋漁業は1974年頃から減ってきている。 ・沖合漁業は1988年頃から減ってきている。 <p>課題を設定する。</p> <p><課題> 「遠洋漁業、沖合漁業はどうしてへったのか考えよう。」</p>	<p>漁業別生産量の変化のグラフ。</p> <p>1974年頃からの遠洋漁業の減少、1988年頃からの沖合漁業の減少に注目させるようにする。</p>
展開 25分	<p>個人の予想を発表する。</p> <p><考え1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚がとれなくなったのではないか。 ・日本のまわりに魚がいなくなったのではないか。 ・日本人が、あまり魚を食べなくなってきたのではないか。 <p>2人組(席の隣どうし)をつくり、他の資料と関連づけながら、遠洋漁業、沖合漁業の減少について考える。</p> <p><考え2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業で働く人の数が減ってきたからではないか。 ・日本のまわりで魚をとれなくなったのではないか。 ・外国から買うようになったのではないだろうか。 <p>200海里問題、海の資源の減少について知る。</p> <p><まとめ> 「200海里問題や海の資源の減少のため、遠洋漁業や沖合漁業の生産量は年々減り続けている。」</p>	<p>自分なりの考えをノートに書いて発表させるようにする。</p> <p>2人組で考えさせることにより、お互いの意見を交換しながらよりよい考え方ができるようにする。</p> <p>他の資料と関連づけながら考えさせるようにする。</p> <p>資料 漁業で働く人の数の変化 大陸だな 200海里漁業水域 おもな水産物の漁獲量輸入量 おもな漁港と海流</p> <p>資料についての質問はそのつど受け、答えるようにする。</p> <p>生産量の移り変わりを、漁業別に読み取ることができる。</p> <p>様々な資料をもとに、日本の水産業は、漁場の制限や水産資源の減少などの問題を抱えていることがわかる。</p>
終末 10分	<p>感想をノートに書く。</p> <p>感想を発表する。</p>	<p>これからの食料確保はどうあればよいかを考えさせるようにする。</p>

(4) 板書計画

課

遠洋漁業、沖合漁業はどうしてへったのか考えよう。

- 考1・海で魚がとれなくなったから
- ・海に魚がいなくなったから
 - ・日本人が魚を食べなくなったから

- 考2・漁業で働く人がへったから
- ・日本のまわりで魚をとれなくなったから
 - ・外国から買うようになったから

ま

200海里問題や海の資源の減少のため、遠洋漁業や沖合漁業の生産量は年々へりつづけている。